

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
B-141	23-412	京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座 鶴身孝介 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)		
Insular volumetry in severe alcohol use disorder and Korsakoff's syndrome through an anatomical parcellation: Let us go back to basics 重度のアルコール使用障害およびコルサコフ症候群における島体積測定と解剖学的分割 : 基本に立ち返ろう		
執筆者		
Pauline Billaux, Pierre Maurage, Nicolas Cabé, Alice Laniepce, Shailendra Segobin, Anne-Lise Pitel		
掲載誌		
Addict Biol. 2023 Oct;28(10):e13324. doi: 10.1111/adb.13324.		
キーワード		PMID
嗜癖、渴望、灰白質体積、島皮質、内受容		37753561
要 旨		
<p>目的: 重度のアルコール使用障害 (sAUD) における島が果たす役割を最先端の分割ツールを用いて明らかにする。</p> <p>方法: 断酒早期の sAUD 患者 50 名、コルサコフ症候群 (KS) 患者 19 名、および健康対照者 (HC) 36 名の島皮質下領域 (前方から後方: 前方下側頭回、前方短回、中間短回、後方短回、前方長回、後方長回) の灰白質容積を比較した。</p> <p>結果: 島皮質の全体的な構造は、アルコール使用障害患者とコルサコフ症候群患者の両方ではほぼ同程度に影響を受けていた。島皮質の萎縮は右側への側性化効果を示し、特に後部島皮質で顕著であった。</p> <p>結論: これらの脳の異常はアルコール関連の神経学的合併症の存在よりもむしろアルコール摂取自体に関連している可能性がある。また、後部島皮質は内臓情報の処理や、物質の体感効果に関連する領域であり、そこから渴望が生じるため、先行研究における島皮質の活性化や行動上の変化は、解剖学的損傷が基盤にある可能性がある。</p>		